

愛知県における 農業・林業・水産業の振興

2023年5月30日（火）

愛知県農業水産局農政部農政課

本日の講義内容

- 1 実は全国有数 あいちの農業
- 2 森林資源が充実 あいちの林業
- 3 豊かな海の幸 あいちの水産業
- 4 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 5 農林水産業の役割
- 6 我が国の農林水産業を取り巻く情勢－ 農業を中心に －
- 7 愛知県の農林水産行政

1-1 あいちの農業の状況①

○農業産出額は中部地区最大で全国第8位（2021年）

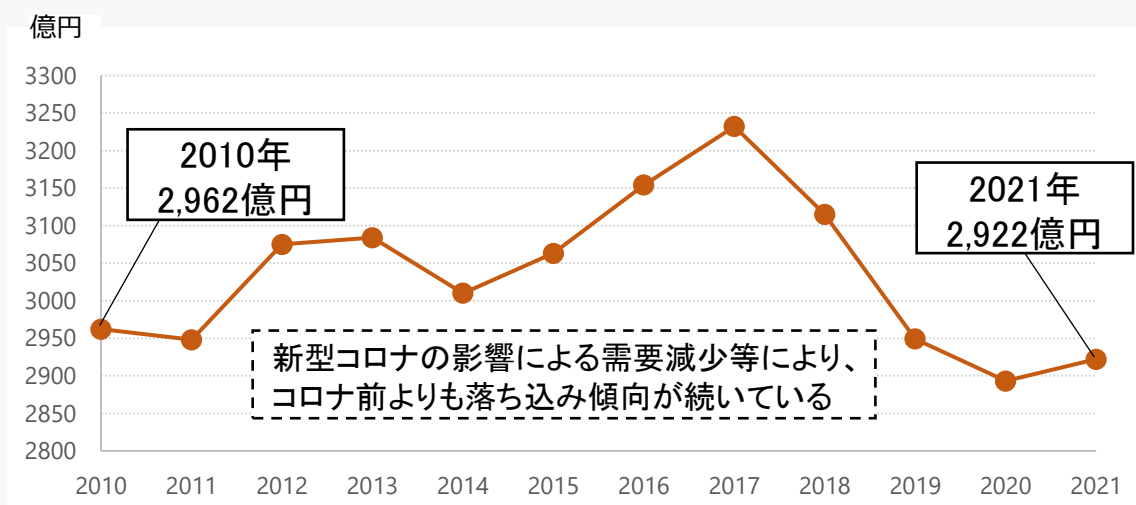
農業産出額の全国順位（2021）

順位	県名	億円	全国シェア
1位	北海道	13,108	14.1%
2位	鹿児島	4,997	5.3%
3位	茨城	4,263	4.9%
4位	宮崎	3,478	4.3%
5位	熊本	3,477	3.8%
6位	千葉	3,471	3.7%
7位	青森	3,277	3.6%
8位	愛知	2,922	3.2%
9位	栃木	2,693	3.2%
10位	岩手	2,651	3.1%
	全国	88,384	—

主な品目別の産出額の全国順位（2021）

品目	順位	億円	全国シェア
野菜	5位	1,031	4.3%
花き	1位	542	16.4%
乳用牛	8位	206	2.2%
鶏卵	10位	220	4.0%

愛知県の農業産出額の推移



1-2 あいちの農業の状況②

○本県では生産性・収益性の高い農業が行われている。

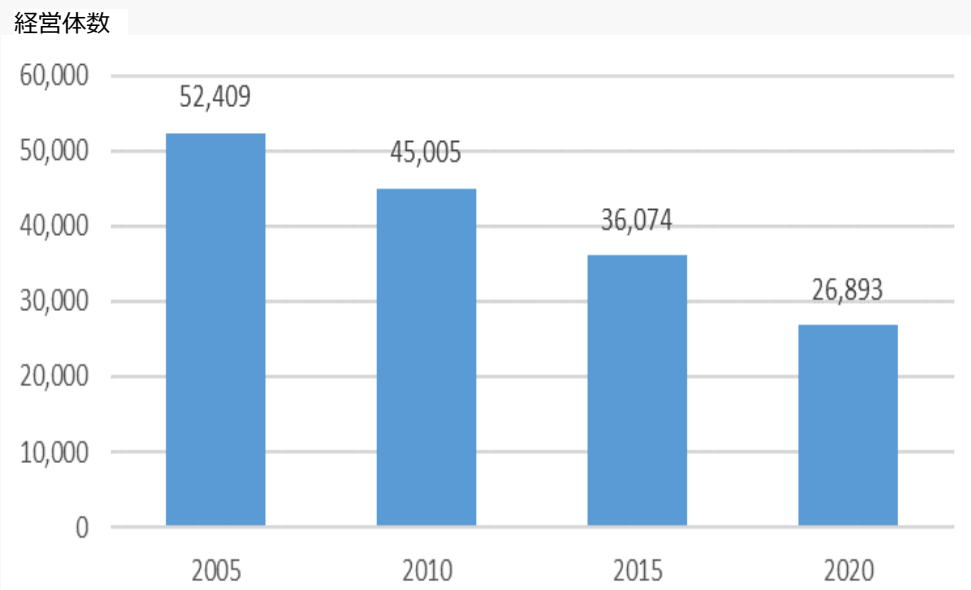
主要指標	愛知県	全国シェア (全国平均)	順位	調査年(月)
耕地面積	73,700ha	1.7%	17	2021(7)
農業産出額	2,922億円	3.3%	8	2021
生産農業所得	1,201億円	3.6%	8	2021
農業経営体数	26,893経営体	2.5%	19	2020(2)
農産物販売金額 1,000万円以上経営体数	5,147経営体	4.0%	4	2020(2)
1経営体当たり生産農業所得	4,466千円	(3,128千円)	5	2021
1経営体当たり平均耕地面積	272.6a	(404.3a)	26	2021
耕地10a当たり生産農業所得	164千円	(77千円)	3	2021

出典：農林業センサス、耕地面積調査、生産農業所得統計

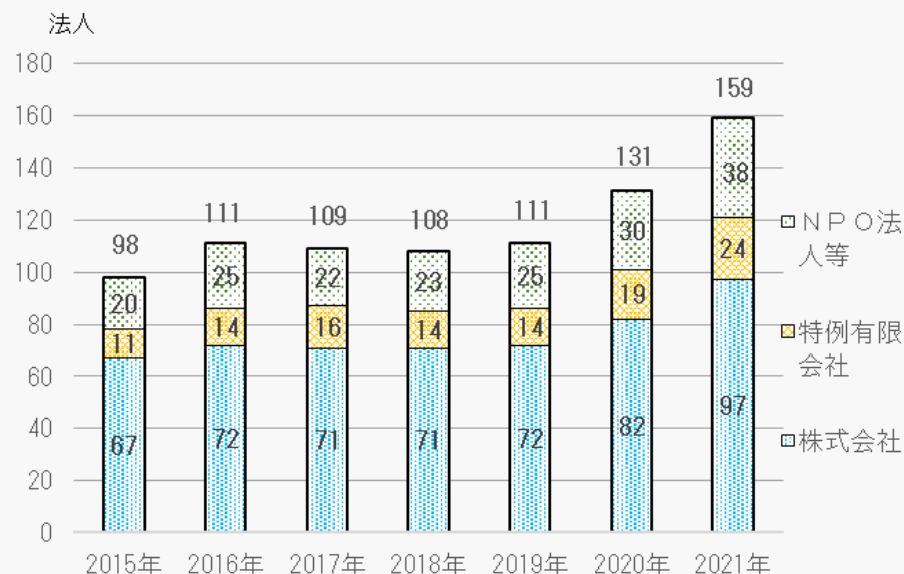
1-3 あいちの農業の状況③

○農業経営体数は徐々に減少傾向である一方、近年、一般法人の農業参入数は徐々に増加傾向。

本県の農業経営体数の推移

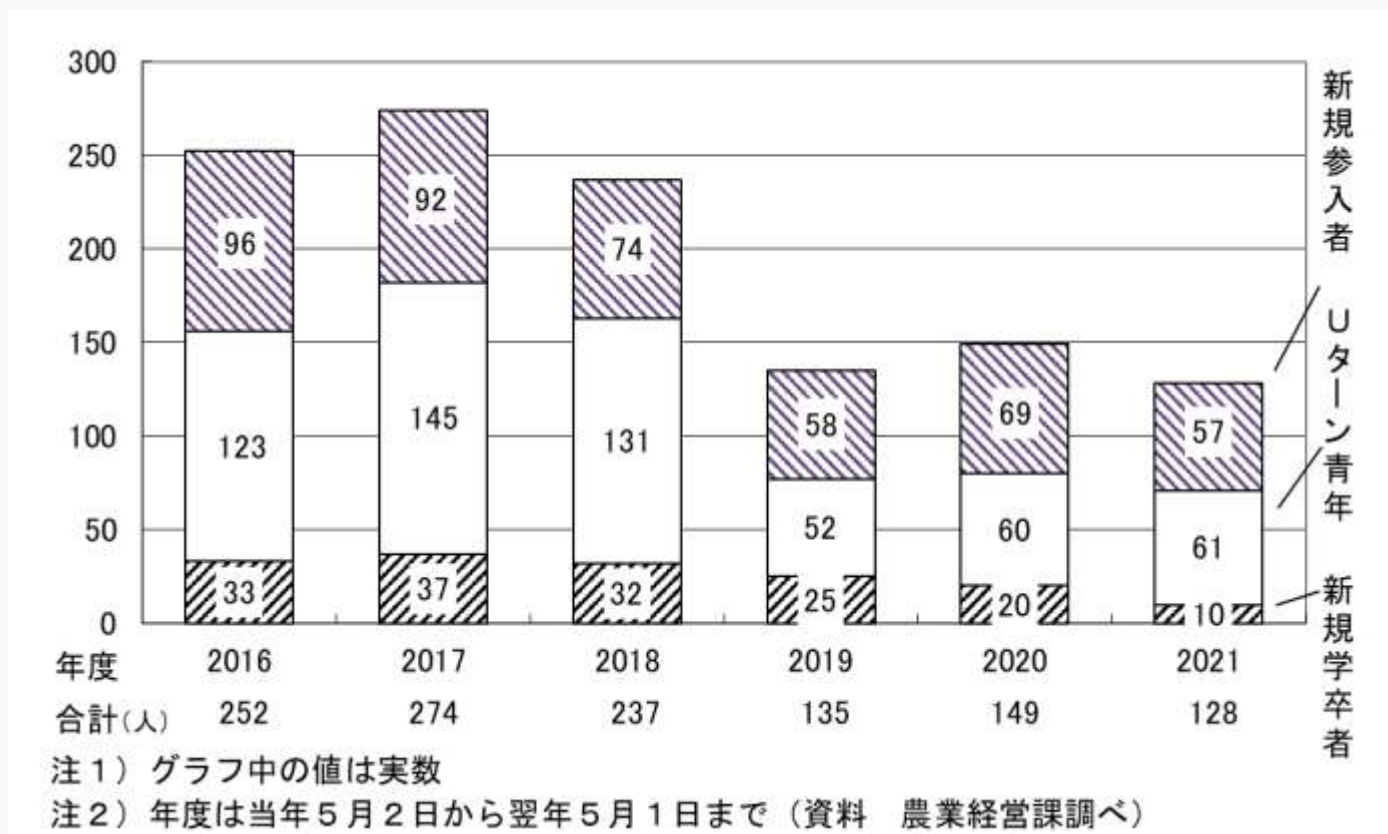


本県の一般法人の農業参入数の推移



1-4 あいちの農業の状況④

○新規就農者（44歳以下）は年平均196人（2016～2021年度）



1-5 豊かな農林水産業

○産出額等が全国トップレベルの名古屋コーチン、花き、抹茶、あさり、うなぎなどの県産農林水産物のブランド力を強化し、知名度向上や需要の拡大を図る取組を推進

愛知県の主な農産物日本一（2021年）

出荷量全国1位（2021年）

※産出額（ ）内は全国シェア

（ ）内は全国シェア



しそ
130億円(71.8%)



ふき
10億円(40.0%)



うずら卵
27億円(62.8%)



いちじく
14億円(21.2%)



キャベツ
252,200トン(19.0%)

名古屋コーチン

日本三大地鶏。唯一純粋種で供給され、知名度・品質ともに「地鶏の王様」と高い評価



2017年2月に産肉性に優れた肉用新系統(NGY7)を開発

花き

産出額は1962年から60年連続で日本一



きく
196億円(36.4%)



ばら
23億円(15.0%)



洋ラン48億円(14.0%)



あさり

【生産量：全国1位】



あさり類
2,364トン(48.0%)

うなぎ

【生産量：全国2位】



養殖うなぎ
5,288トン(25.6%)

抹茶（てん茶）

【生産量：全国4位】

てん茶
407トン(12.7%)



1-6 県内各地域の農業

名古屋・尾張地域

木曾川による肥沃な土壌により野菜の生産が盛ん
都市近郊型の産地として多種多様な品目を生産

【主な生産物】

なす、ふき、桃、花き、ぎんなん、名古屋コーチン

豊田加茂地域

南西部の平坦地域と北東部の中山間地域
からなり、米や果樹の栽培、畜産が盛ん

【主な生産物】

米、小麦、大豆、なし、桃、てん茶、鶏

新城設楽地域

中山間地域で農地面積は少なく畜産
が盛ん

【主な生産物】

鶏、肉用牛、シクラメン

海部地域

木曾川のデルタ地帯に位置し、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた地域

【主な生産物】

米、れんこん、いちご、トマト、鉢花

知多地域

愛知用水が通水し、農業が飛躍的に発展。畜産が盛ん

【主な生産物】

乳用牛、肉用牛、豚、ふき、みかん、ぶどう、洋らん

西三河地域

矢作川を水源とする明治用水等の水利に恵まれ、農業用ハウスを利用した野菜や花の栽培が盛ん

【主な生産物】

米、小麦、大豆、てん茶、いちじく、洋らん

東三河地域

温暖な気候と豊川用水により、野菜や花を栽培する全国屈指の農業地域

【主な生産物】

キャベツ、トマト、しそ、きく、ばら、シクラメン、豚、肉用牛、うずら卵

米・小麦・大豆

米
小麦
大豆



果樹・茶

みかん
ぶどう
いちじく
なし
かき
筆柿
もも
ぎんなん
てん茶
せん茶



野菜

キャベツ
トマト
いちご
しそ
なす
ブロッコリー
ふき
とうがん



花き

きく
洋らん
観葉植物
ばら
カーネーション
シクラメン
花き苗類



畜産

鶏
豚
乳用牛
肉用牛
うずら卵
名古屋コーチン





1-7 全国有数の農業水利施設

- 木曾川・矢作川・豊川の水を、農業・生活・工業用水として総合的に利用
- 基幹水利施設の水路延長は全国3位、農地面積に占める水路密度は全国1位
- 農業のみならず、県民の生活を支える社会資本として、耐震化・更新整備を推進

【木曾川水系】

○宮田用水

- ・主な受益地域 尾張西部
- ・受益面積 6,550ha
- ・取水開始 1608年
- ・水源 木曾川自流

○木津用水

- ・主な受益地域 尾張北部
- ・受益面積 1,694ha
- ・取水開始 1650年
- ・水源 木曾川自流

○木曾川用水

- ・主な受益地域 海部
- ・受益面積 6,273ha
- ・取水開始 1646年
(佐屋川開削)
- ・水源 木曾川自流

○愛知用水

- ・主な受益地域 尾張東部、知多
- ・受益面積 14,596ha
- ・取水開始 1961年
- ・水源 牧尾ダム



天山頭首工



木曾川大堰



枝下水幹線水路



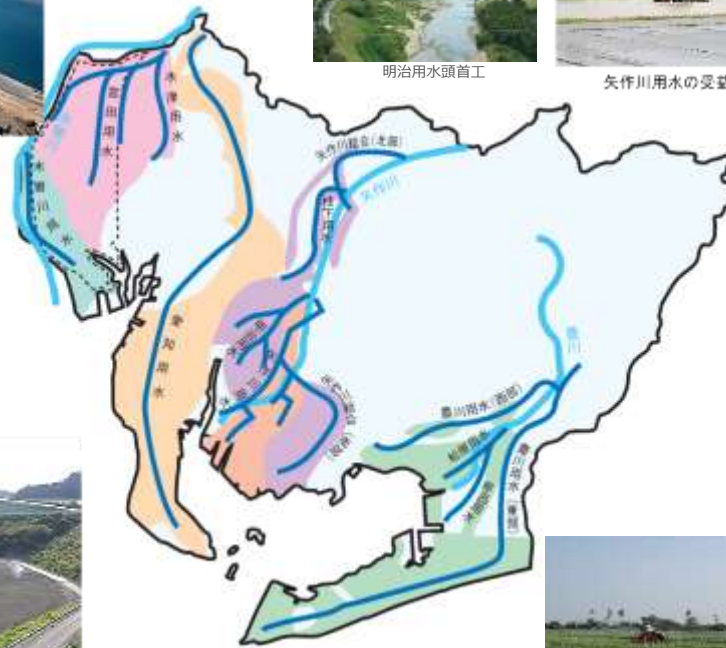
羽布ダム



明治用水頭首工



矢作川用水の受益地



【矢作川水系】

○矢作川総合用水（北部）

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 682ha
- ・取水開始 1979年
- ・水源 矢作ダム

○枝下用水

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 1,582ha
- ・取水開始 1884年
- ・水源 矢作ダム

○明治用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 4,759ha
- ・取水開始 1880年
- ・水源 矢作ダム

○矢作川用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 6,019ha
- ・取水開始 1963年
- ・水源 羽布ダム

○矢作川総合用水（南部）

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 1,006ha
- ・取水開始 1985年
- ・水源 矢作ダム

【豊川水系】

○豊川用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 15,350ha
- ・取水開始 1968年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム

○松原用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 641ha
- ・取水開始 1567年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム

○牟呂用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 970ha
- ・取水開始 1888年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム



大島ダム



豊川用水の受益地



牟呂松原頭首工



愛知用水幹線水路



愛知用水の受益地

2-1 愛知県林業の位置

林業産出額（2020） 28.7億円（全国34位）

木材・木製品出荷額（2019） 1,430億円（全国5位）

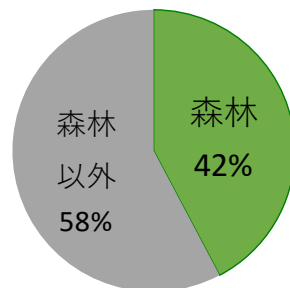
順位	2015	2016	2017	2018	2019（億円）
1位	茨城県	静岡県	静岡県	静岡県	静岡県（2,108）
2位	静岡県	北海道	北海道	茨城県	北海道（1,693）
3位	北海道	茨城県	茨城県	北海道	茨城県（1,675）
4位	広島県	愛知県	愛知県	愛知県	広島県（1,617）
5位	愛知県	広島県	広島県	広島県	愛知県（1,430）

出典：生産林業所得統計、工業統計表（産業編）

2-2 愛知県の森林

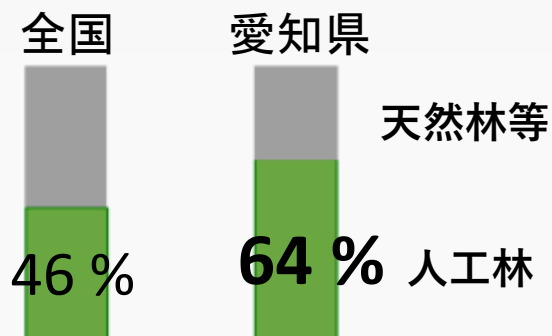
○県土の約4割を森林が占める

総土地面積 517,010ha
 森林面積 217,744ha



○人工林率63.6%（2020）、全国第3位

人工林率



地域森林計画対象森林（人工林）

樹種別面積



樹種別蓄積

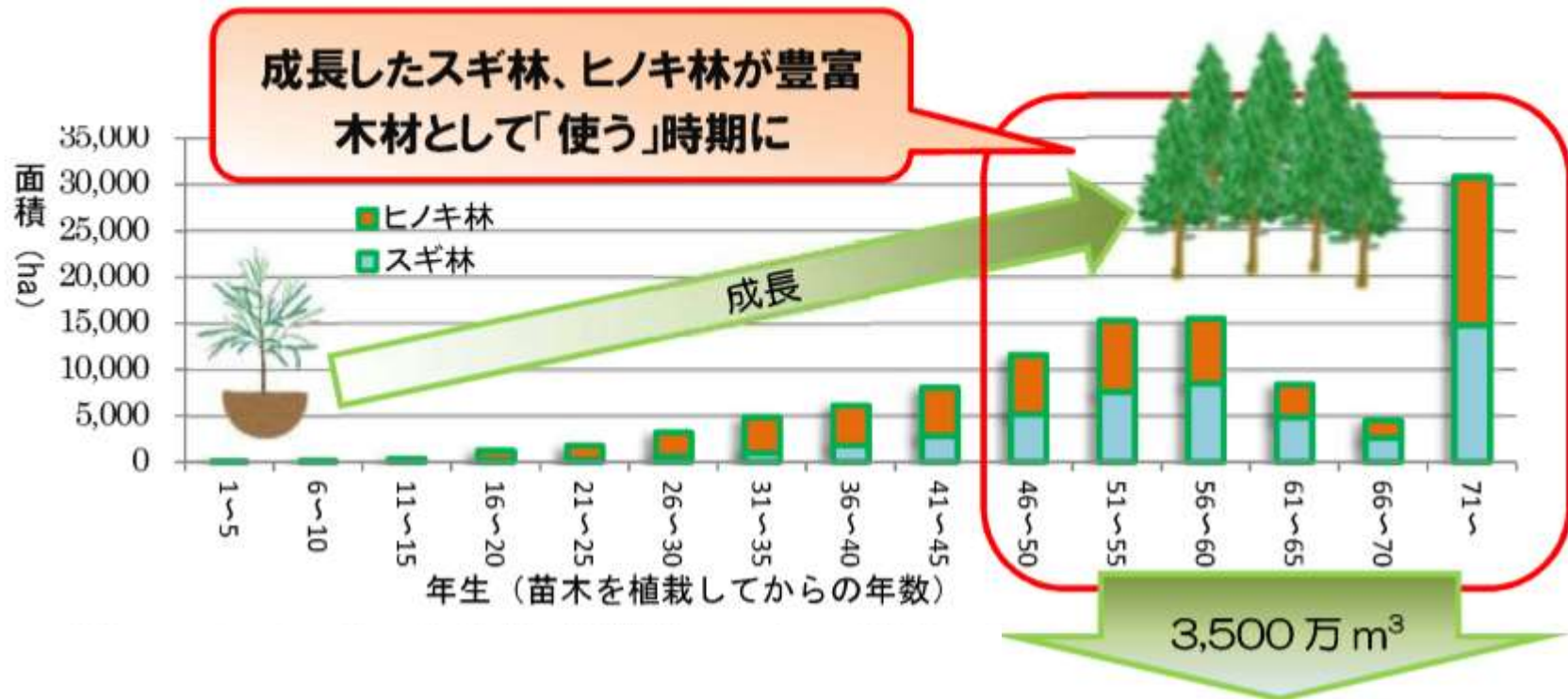


○人工林の約8割が10齡級（46から50年）以上
 ⇒資源の成熟が進んでいる。





2-3 あいちの森林資源は充実期



【人工林の蓄積と利用量】

蓄積 (千 m ³)		成長量 (千 m ³ /年)	利用量 (千 m ³ /年)
2013	2018	469	128
36,989	39,334		

出典：平成 30 年度 愛知県林業統計書



成長量の3割程度が利用されている



3-1 愛知県の水産業の位置

漁業総産出額（2020） 355億円

海面漁業・養殖業（2020） 160億円（全国24位）

順位	2017	2018	2019	2020（億円）
1位	北海道	北海道	北海道	北海道 (2,021)
2位	長崎県	長崎県	長崎県	長崎県 (893)
3位	愛媛県	愛媛県	愛媛県	愛媛県 (718)
...
	27位 愛知県	24位 愛知県	25位 愛知県	24位 愛知県 (160)



3-2 愛知県の水産物

愛知県を代表する水産物（生産量が全国1 - 2位）

1位



あさり類 2,364 t
(全国シェア48.0%)



くるまえび 67 t
(全国シェア31.5%)



あゆ養殖 1,247 t
(全国シェア31.9%)

2位



うなぎ養殖 5,288 t
(全国シェア25.6%)



しらす 9,619 t
(全国シェア14.0%)



きんぎょ養殖 4,810千尾

3-3 愛知県水産マップ

出典：愛知県の水産業（愛知県）



愛知県の水産業は、伊勢湾、三河湾、渥美外海という豊かな海と、県内各地の河川や養殖池等で密まっています。漁獲量日本一で高い全国シェアを持つアサリを始め、ガザミ、クルマエビ、シラス、養殖ワナギなど、全国上位を占める水産物が多く生産されています。

伊勢湾・三河湾の概況		
面積	伊勢湾	1,738 ㎩
	三河湾	604 ㎩
平均水深	伊勢湾	19.5m
	三河湾	9.2m

目次	
I	愛知県水産マップ 1
II	愛知県の主要な漁業 3
III	愛知県の水産施策 9
IV	愛知県の水産物 13
V	あいちの四季の魚 15

4-1 愛知県在地勢と強み

【自然条件】

国土のほぼ中央に位置し、大都市圏にありながら、伊勢湾・三河湾の海、三河山間地域を中心に県土の42%を森林が占めるという豊かな自然条件に恵まれている。

【交通アクセス】

高速道路、新幹線、港湾、空港と陸・海・空の交通条件に優れている。

【人口】

人口は、約750万人で全国第4位（※2020年国勢調査）

【産業】

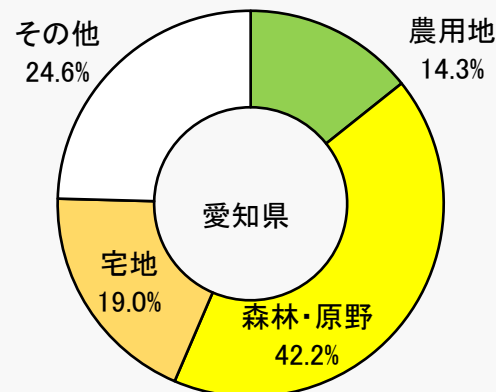
農業産出額販売：全国第8位（2021年）

製造品出荷額等：全国第1位（2021年（昭和52年以来44年連続第1位））

年間商品販売額：全国第3位（2021年）

⇒バランスの良さ、ポテンシャルの高さが愛知県の強み

愛知県の土地利用状況



（出典：愛知県 2021年版「土地に関する統計年報」）



4-2 農林水産業の発展を支えた要因

【立地条件】

温暖な気候や自然条件に恵まれ、農林漁業に適した地域。
また、大消費地である名古屋圏が近くにあるなど、生産地と消費地が近接。

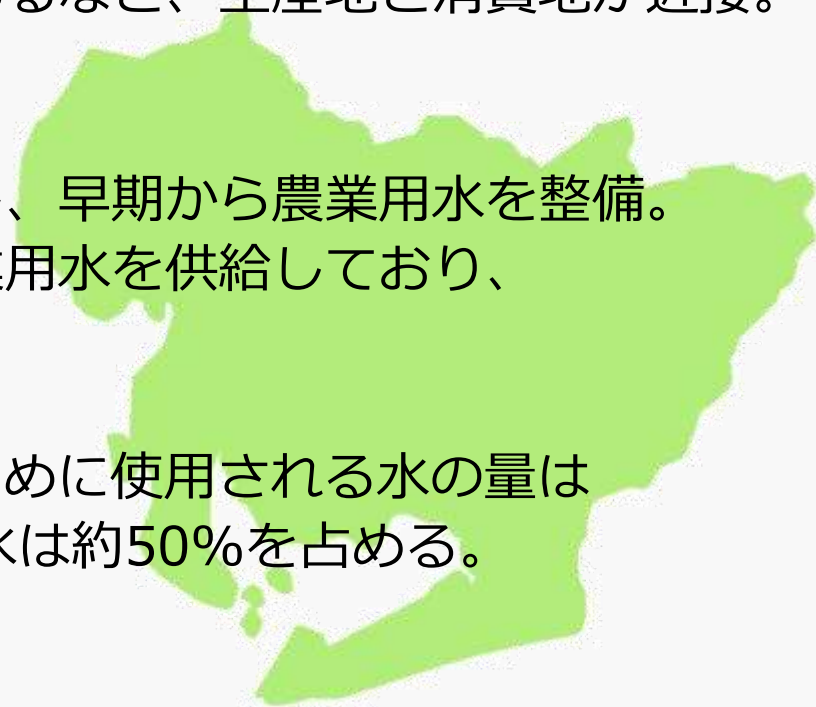
【農業用水の整備】

木曾川、矢作川、豊川の豊かな水を利用し、早期から農業用水を整備。
平野部を始め知多半島や渥美半島まで農業用水を供給しており、
特に、東三河地域の農業発展の礎である。

⇒愛知県において、産業活動や生活のために使用される水の量は
約29億 m^3 /年で、このうち、農業用水は約50%を占める。

【技術開発力】

古くからモノづくりが盛ん、技術の集積を農林水産業に転用。
県は各試験場において、品種改良や新たな生産技術の開発などの取組を推進。





5-1 農林水産業は生活・社会を安定させる基盤

生活に欠くことのできない基礎的な物資の供給

- ・食料（生鮮食料品）、木材、花き 等
- ・加工素材→食品、医薬品、紙、燃料、肥料 等

経済活動の促進

- ・農林漁業者の所得確保、経済への寄与

農山漁村での定住による地域社会の維持

- ・過疎化の防止、地域文化の継承 等

生産活動を通じた森林・農地の適正管理による国土・環境の保全等

- ・災害の防止、水資源のかん養、緑や景観の提供 等

国民の安全で豊かな暮らしを守り、
国家社会を安定させる基盤



5-2 農林水産業・農山漁村の有する多面的機能

多面的機能とは：

県土や自然環境の保全、水資源のかん養、洪水の防止などの、森林、農地、海及び川が有する農林水産物の供給以外の多面にわたる機能





5-3 多面的機能の貨幣評価－2000年試算－

【全 国】 89兆4,439億円（2000年農業産出額 9兆1,295億円）

【愛知県】 1兆1,884億円（2000年農業産出額 3,419億円）

愛知県における多面的機能の貨幣評価額（平成12年）

（単価：億円／年）

【農地（農業）】

項 目	評価額
洪水防止	754
水資源かん養	109
土壌侵食防止	59
有機性廃棄物処理	7
気候緩和	4
保健休養・やすらぎ	1,373
合 計	2,306

※日本学術会議の答申を基に試算。
教育の場の提供、大気浄化等の機能は含まず。

【森林（林業）】

項 目	評価額
二酸化炭素吸収	136
表面侵食防止	2,508
表層崩壊防止	749
洪水緩和	677
水資源貯留	1,217
水質浄化	1,946
化石燃料代替	111
健・レクリエーション(うち保養)	200
合 計	7,544

※日本学術会議の答申を基に試算。
生物多様性の保全等の機能は含まず。

【海と川（水産業）】

項 目	評価額
物質循環	424
水質浄化	701
環境美化(海浜、海底等)	98
生命財産保全(救助活動等)	35
保養・交流・学習	776
合 計	2,034

※水産庁委託調査結果を基に試算。
生物多様性の維持、文化・伝統の継承等の機能は含まず。



6-1 農地面積の推移と国際比較

農地面積や作付延べ面積は
緩やかに減少

農家1戸当たり耕地面積は、
諸外国に比べて小さい

	①農家1戸当たり 耕地面積(ha)	②日本の水準に 対する倍数
日本	2.3	1
イギリス	78.6	35
フランス	52.3	23
米国	169.6	75
豪州	2970.4	1309

(資料) 農林水産省「農業構造動態調査」(2011年)、EU「農業センサス」(2010年)、
米国農務省統計(2010年)、豪州「Australian Commodity Statistics」(2010年)
より作成

図表2-2-1 農地面積、作付(栽培)延べ面積、耕地利用率



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

注：耕地利用率 (%) = 作付(栽培)延べ面積 ÷ 農地面積 × 100

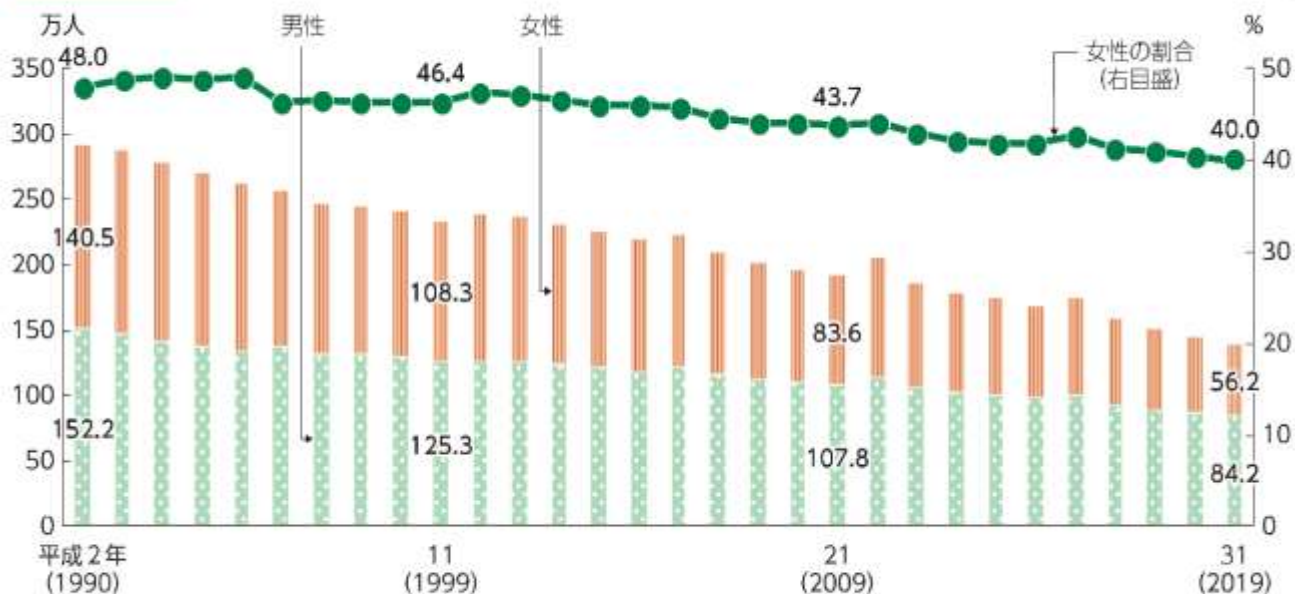
6-2 農業の担い手の状況

基幹的農業従事者数は約140万人で減少の一途

60歳以上が約8割を占める

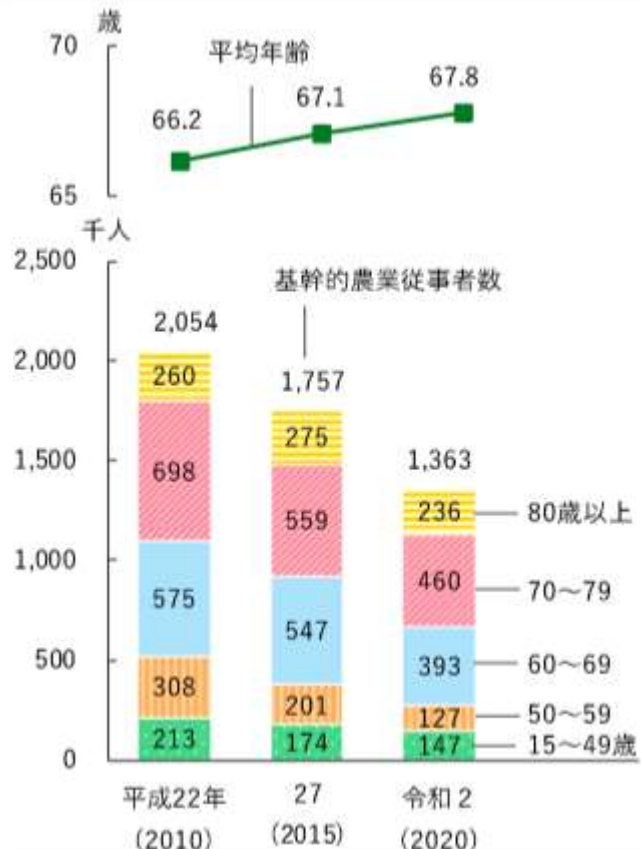
〔農家数・農業従事者数の推移〕

図表 特2-6 基幹的農業従事者数の男女割合



資料：農林水産省「農業構造動態調査」、「農林業センサス」を基に作成
 注：1) 基幹的農業従事者とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。
 2) 各年2月1日時点

〔年齢構成〕



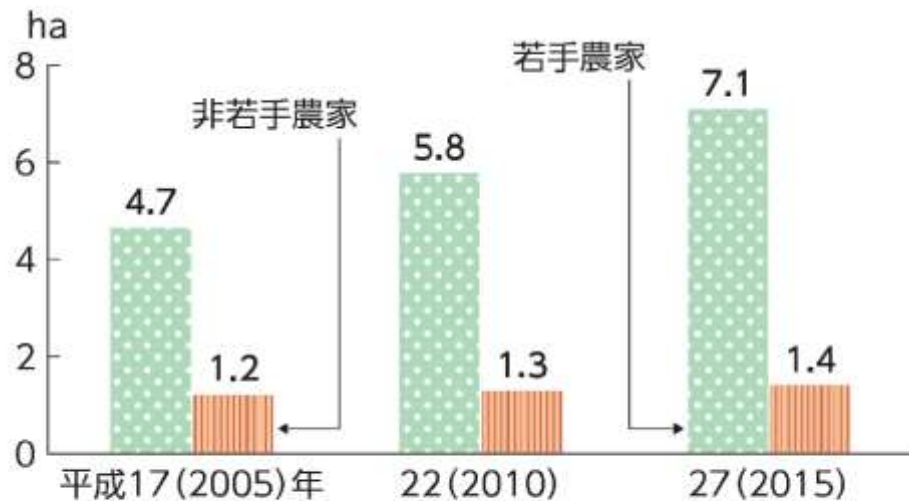
資料：農林水産省「農業センサス」



6-3 経営規模の拡大

規模拡大は若手農家で顕著に進展

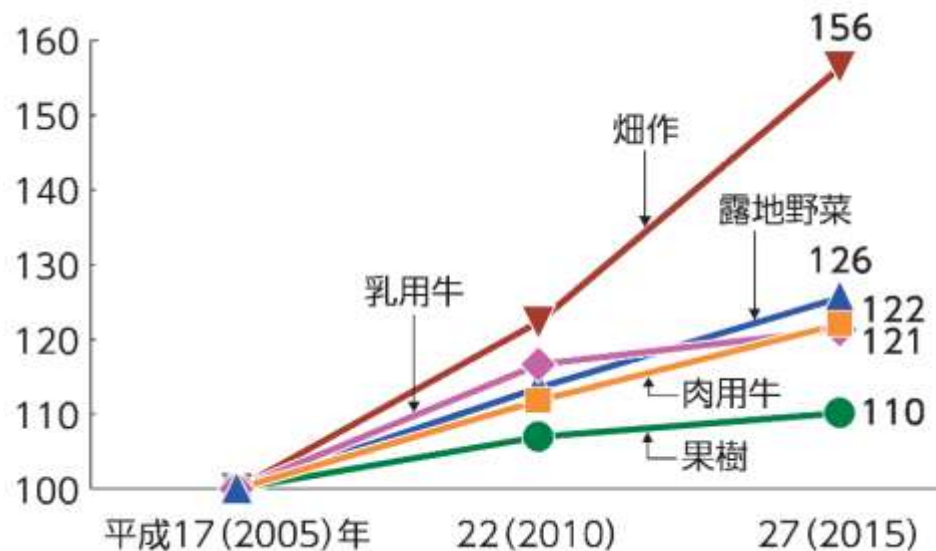
〔稲作単一経営の1戸当たり規模〕



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

注：各農家の1戸当たりの経営規模は、経営耕地面積÷経営耕地のある農家数で集計

〔稲作単一経営以外の1戸当たり規模〕



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

注：1) 畑作は、「麦類」、「雑穀・いも類・豆類」、「工芸農作物」

2) 各年の1戸当たりの経営規模は次のとおり集計

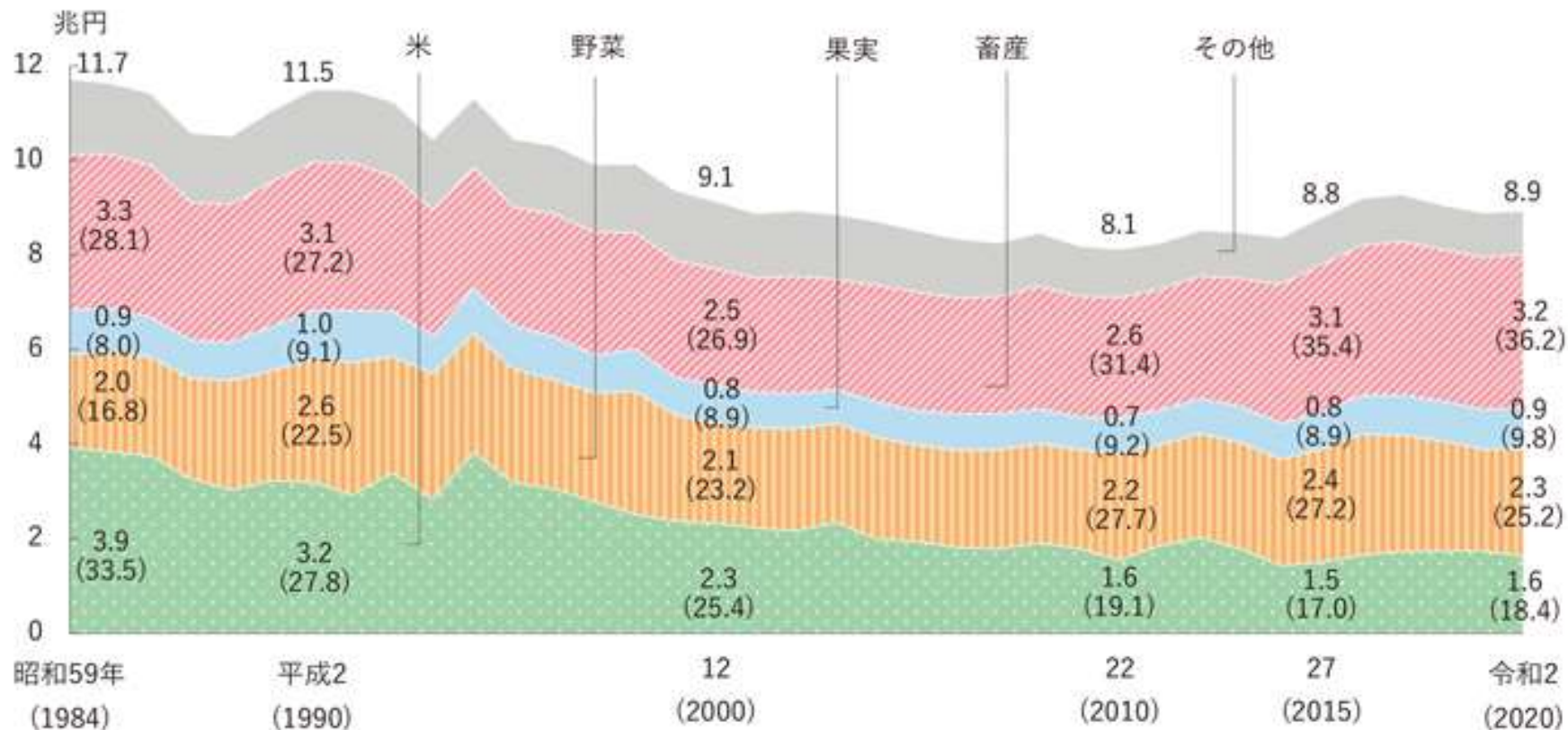
畑作、露地野菜、果樹は、経営耕地面積÷経営耕地面積のある農家数、乳用牛は、2歳以上の乳用牛飼養頭数÷2歳以上の乳用牛飼養農家数、肉用牛は、子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養頭数の合計÷子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養農家数



6-4 農業生産の推移

平成は全体的に漸減傾向にあったが、ここ数年はやや回復

図表2-1-1 農業総産出額



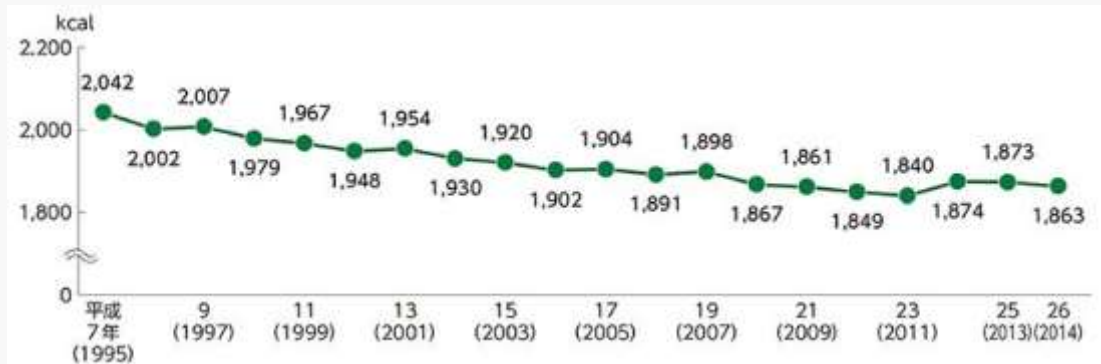
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：1) 「その他」は、麦類、雑穀、豆類、いも類、花き、工芸農作物、その他作物、加工農産物の合計

2) ()内は、産出額に占める割合(%)

出典：農林水産省「生産農業所得統計」

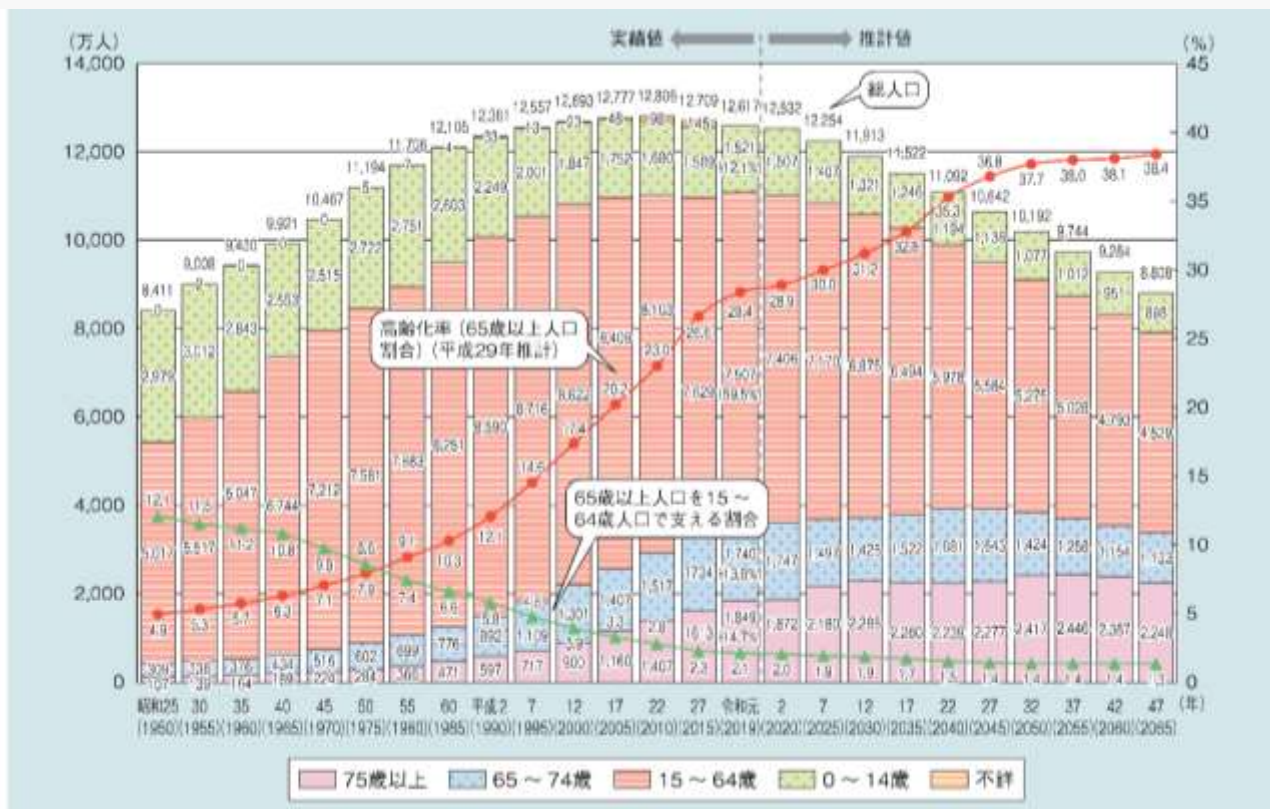
6-5 食料消費量の推移



国民1人・1日当たりの
摂取熱量は漸減傾向で推移

人口は2008年をピークに減少
2053年に1億人を割る

出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」



出典：総務省
「国勢調査」

6-6 食料自給率の推移

自給率の高い米の消費減、飼料等の輸入増加により
長期的に低下傾向

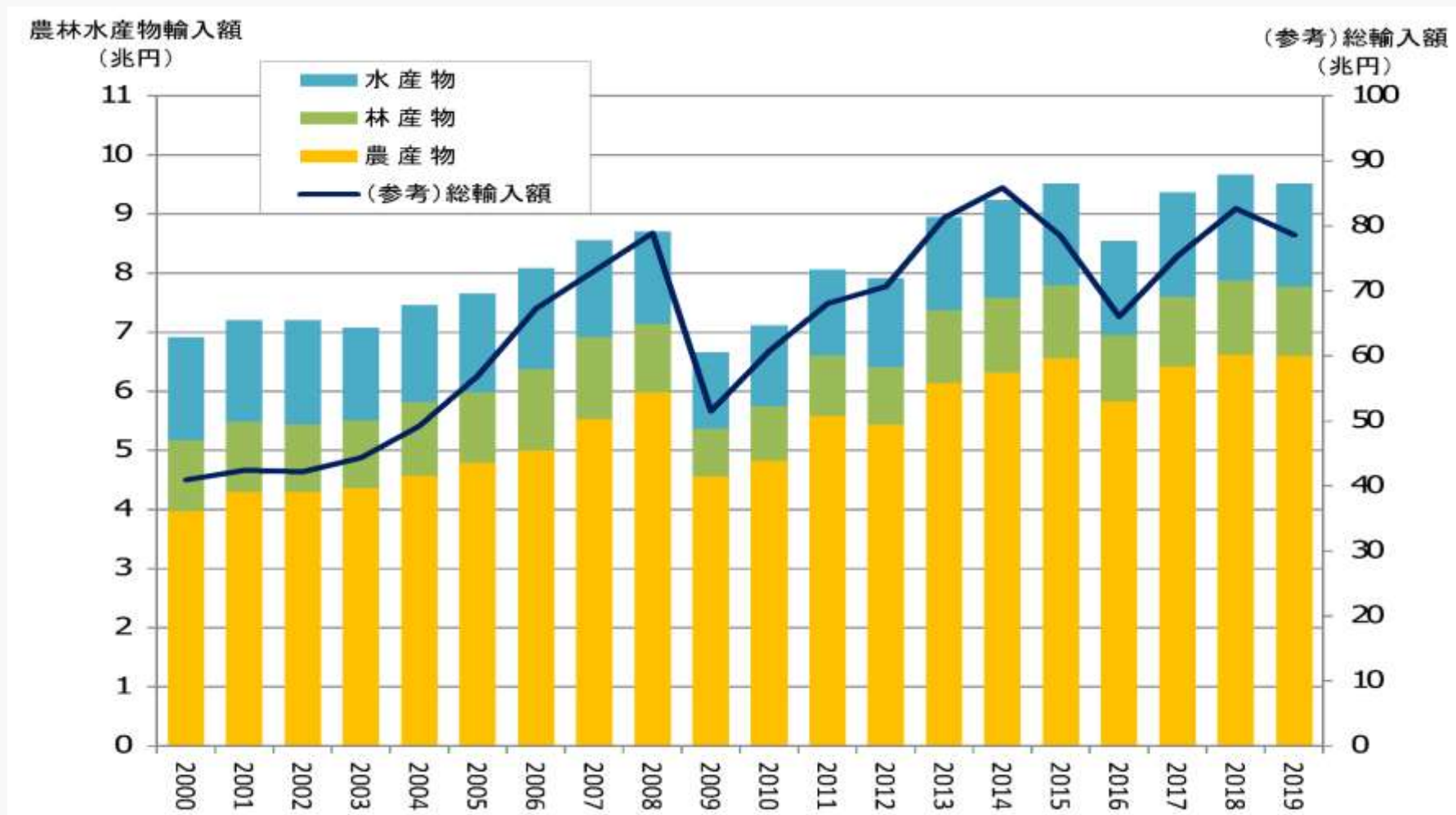
図表 1-1-2 我が国の総合食料自給率



出典：農林水産省「食料需給表」

6-7 農林水産物の輸入

2018年の輸入額は9兆5,198億円で8兆6,077円の輸入超過

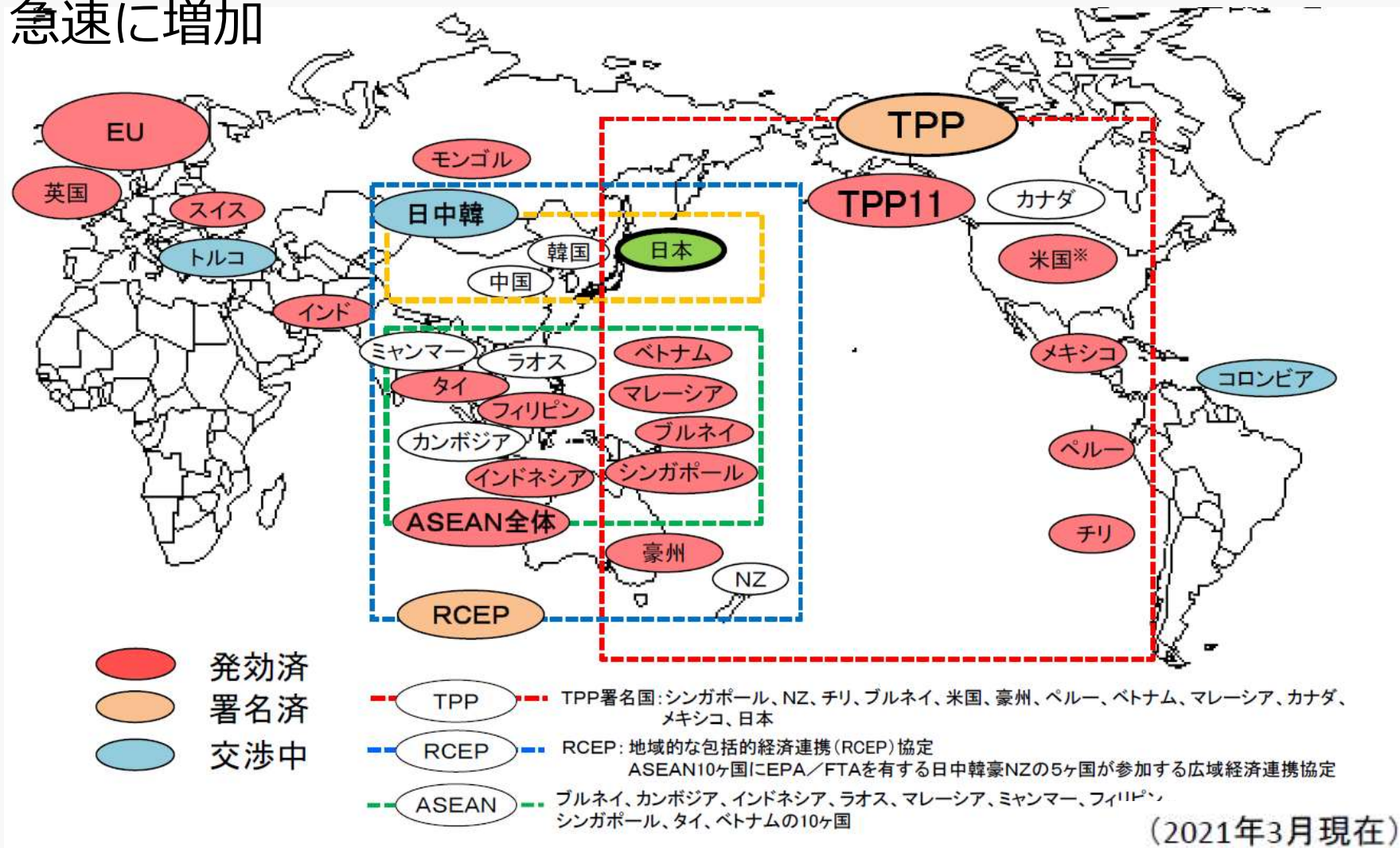


出典：財務省「貿易統計」



6-8 国際交渉の状況

世界経済のグローバル化により1990年代以降、EPA・FTAは急速に増加



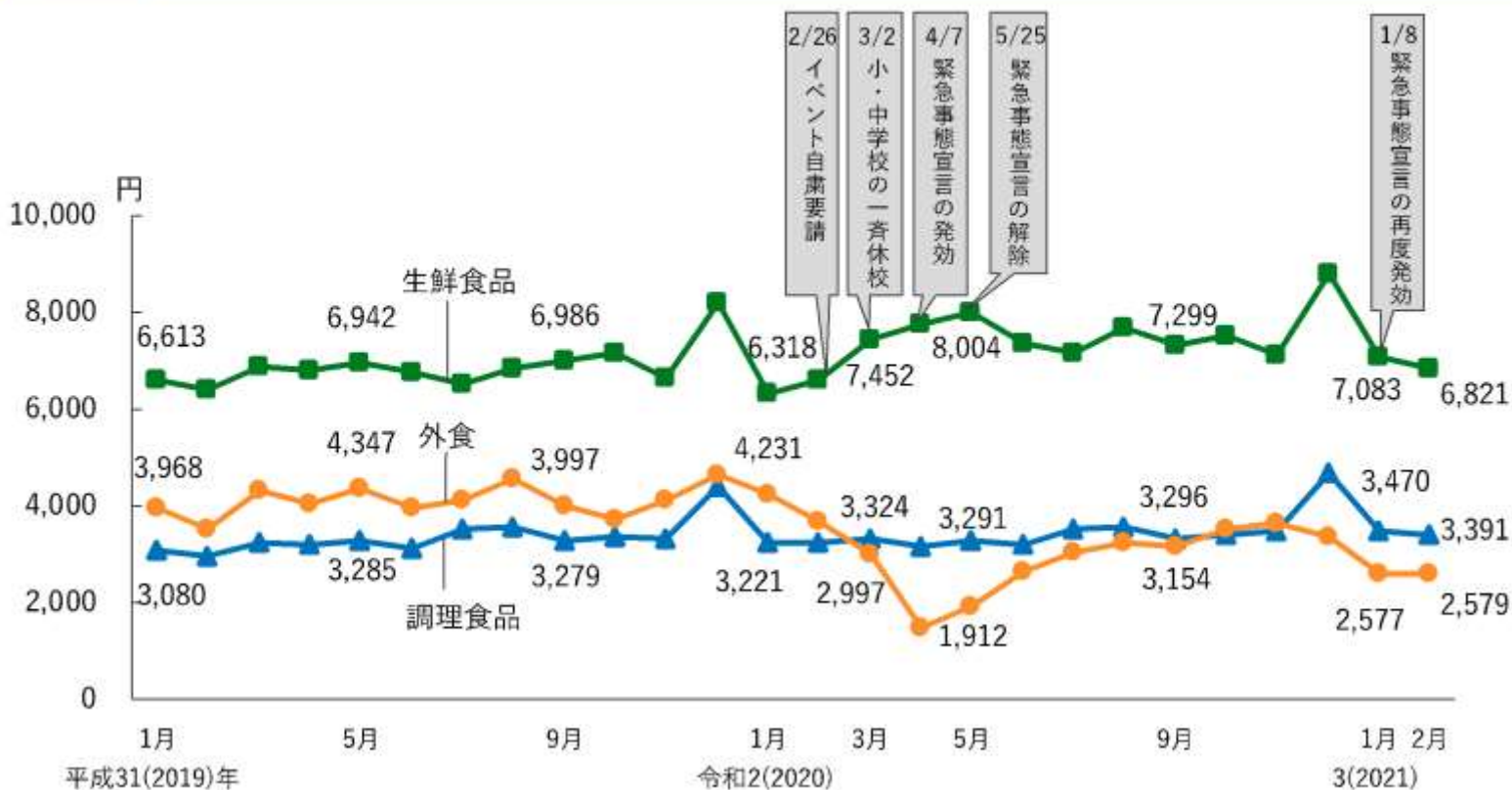
出典：農林水産省「2021.3 経済連携交渉の状況について」



6-9 新型コロナウイルス感染症 感染拡大の影響

外食への支出が大きく減少、生鮮食品への支出が増加

図表 特-1 1人1か月当たりの食料消費支出額の推移



出典：総務省「家計調査」を基に農林水産省作成



7-1 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例（2004年）

基本理念：

将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。

将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。

暮らしを支える食

○食の役割

食料は、人の生命の源であり、私たちの健康の維持に不可欠です。また、毎日食べるものだからこそ、量や品質の面での安全・安心が必要です。

○食のあり方

食事内容や食事の取り方など、私たちの「食のあり方」が時代とともに変化し、生活習慣病の増加や食料の生産・消費など様々な分野に影響を及ぼしています。

暮らしを支える緑等

○森林、農地、海や川

森林、農地、海や川は、食料等を生産する場所であると同時に私たちの暮らしの場の一部です。

○多面的機能の役割

森林、農地、海や川は、県土の保全や水源のかん養などの様々な機能(多面的機能)を持っており、自然災害の防止や地球温暖化の防止などにより、私たちの暮らしを守っています。

7-2 食と緑の基本計画

- 「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」に基づいて知事が定める、食と緑に関する施策の基本的な方針（5年毎に策定）

「食と緑の基本計画」

（2005年2月策定）

「食と緑の基本計画2015」

（2011年5月策定）

「食と緑の基本計画2020」

（2016年3月策定）

「食と緑の基本計画2025」

（2020年12月策定）

「食と緑の基本計画2025」

■ 現状と課題

人口減少局面における担い手の確保
革新的な新技術の社会実装による生産性向上
経済のグローバル化に対抗しうる競争力の強化
脅威を増す感染症への対策
SDGs達成に向けた持続性の高い生産を推進
県産農林水産物の消費拡大
農林水産業への理解促進
地球温暖化等の気候変動への適応
農山漁村の維持・活性化に向けた“関係人口”の創出

7-3 食と緑の基本計画 2025

2025年にめざす姿と目標

緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策

	めざす姿	目標 ()内は現状値	重点プロジェクト	施策体系
生産現場	持続的に発展する 農林水産業の実現	農業産出額 3,150億円 (3,115億円) 2014-2018平均	農業の 生産力強化	生産の柱
		県産木材生産量 18.0万m ³ (13.9万m ³) 2019年	林業の 生産力強化	
		漁業産出額 410億円 (390億円) 2014-2018平均	水産業の 生産力強化	
暮らし	農林水産の恵みを 共有する社会の実現	県産農林水産物を優先して購入したい 県民の割合 25.0% (15.4%) 2020年	需要拡大・ 魅力向上	暮らしの柱
		農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha	地域の 防災・減災	



7-4 農業の生産力強化等に向けた取組①

○「食と緑の基本計画2025」に基づき、農林水産業の生産力を強化するための様々な取組を展開。

産地生産基盤パワーアップ事業（国）

国際競争力の強化に向けて産地の生産力の向上を図るため、高収益化に必要な施設整備や機械の導入等を支援

<主な採択要件>

生産目標：産地全体で10%以上向上
面積：露地栽培：10ha、施設栽培：5ha

<支援状況（2022年度計画承認分）>

4市5事業（名古屋市、豊橋市、西尾市、田原市）

<主な取組事例>

名古屋市

- 水稻
- ・ 水田農業用大型機械の導入（2農家）

豊橋市

- 施設野菜（大葉、花穂）
- ・ ヒートポンプ等の導入（7農家）
- 施設花き（切り花、バラ等）
- ・ ヒートポンプ等の導入（6農家）

西尾市

- 茶
- ・ 乗用摘採機等生産管理機械及び資材の導入（4農家）
- 施設野菜（きゅうり）
- ・ 施設の改修（1農家）

田原市

- 施設花き（キク、鉢物）
- ・ 自動結束付重量選別機、ヒートポンプ等の導入（8農家）

あいち型産地パワーアップ事業（県）

国の採択要件を満たせない産地を支援するため、**県独自の補助制度を創設（2018年度）**

2023年度当初予算額：2億4千万円

補完



<主な採択要件>

生産目標：取組主体の事業単位で10%以上向上
面積：露地栽培：3ha、施設栽培：1ha

<支援状況（2022年度計画承認分（4月））>

10市町村12事業（豊橋市、津島市、豊田市、西尾市、愛西市、弥富市、田原市、扶桑町、蟹江町、飛島村）

<主な取組事例>

愛西市

- 施設野菜（いちご）
- ・ 栽培施設の整備（1農家）

蟹江町・飛島村

- 施設花き（鉢物）
- ・ 栽培施設の整備（1農家）
- ・ 常温煙霧機（1農家）

津島市

- 水稻
- ・ コンバインの導入（1農家）

西尾市

- 施設野菜（いちご）
- ・ 被覆資材の張替（1農家）

豊橋市

- 水稻
- ・ コンバインの導入（2農家）

田原市

- 施設花き（キク）
- ・ 栽培施設の整備（4農家）
- 施設花き（いちご）
- ・ 栽培施設の整備（1農家）

7-5 農業の生産力強化等に向けた取組②

スマート農業推進事業

ICT等の先端技術について、現地実証等を行うとともに、研究機関との連携のための環境を整備し、スマート農業の生産現場への迅速な普及拡大を推進

※スマート農業とは：ロボット、AI、IoT等先端技術を活用した農業。



ドローンを用いたリモートセンシングによる効率的な小麦の生育診断



スマートフォンを用いた野菜の生育診断

畜産クラスター事業

畜産の国際競争力の強化を図るため、地域ぐるみで実施する畜産の収益力向上を目的とした施設整備を支援

<支援状況（2022年度）>

2協議会 3取組主体

（田原市、美浜町）（採卵鶏農家1、養豚農家2）

田原市（採卵鶏1農家、養豚1農家）

- 成鶏舎1棟等
- 繁殖豚舎1棟等

美浜町（養豚1農家）

- 繁殖豚舎1棟等



名古屋コーチンの生産体制

生産拠点である「畜産総合センター種鶏場」の供給機能・防疫体制を強化するため、名古屋コーチン発祥の地と言われる小牧市内へ移転・整備（2023年3月完成）

- 市場ニーズを充足するため、出荷羽数を200万羽へ拡大



「地鶏の王様」名古屋コーチン



新種鶏場（小牧市）

7-6 農林水産物の需要拡大に向けた取組

愛知の農林水産物のブランド力強化のため、様々な取組を展開

- ・「いいともあいち運動」を推進
- ・SNS等を活用した情報発信や、他産業と連携したPR
- ・首都圏の量販店において農業団体と連携したトップセールスを実施
- ・食と花の街道（食16街道、花1街道）を認定し、広くPR



いいともあいち運動

県民の方々に、愛知県の農林水産業の応援団になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動



シンボルマーク「あいまる」

花の王国あいち

愛知県は1962年から花の産出額日本一

きく、洋らん、ばら、観葉植物など、品目別産出額日本一



シンボルマーク：

愛知県が日本一の花の産地であることを知っていただくために作成

都市部における県産木材の利用促進

第70回全国植樹祭の開催理念を継承し、民間施設等の木造・木質化を促進

木造・木質化を担う技術者の育成



お野立所（愛知県森林公園）



学童保育
（名古屋市）



Aichi Sky Expo（常滑市）

7-7 農業のブランド力強化に向けた取組①

主要な品目のブランド力強化

愛ひとつぶ

- 農業総合試験場が開発した米品種
- 猛暑の年でも見た目が美しく、もっちりとして上品な甘みが特徴



夕焼け姫

- 農業総合試験場が開発したカンキツ品種
- 名前は夕焼けのような鮮やかな赤橙色にちなんだもの



あいみずき

- 農業総合試験場と(独)農業・食品産業技術総合研究機構が共同開発した品種
- 際立つ甘さとみずみずしくシャリツとした食感が特徴



かがり弁ギク

- 農業総合試験場と(国研)量子科学技術研究開発機構が共同開発した品種
- 祝い事の華やかなフラワーアレンジメント向き



みかわ牛

- 「みかわ牛銘柄推進協議会」を設立し、「みかわ牛」のブランド力を強化



その他

花き

- ・産出額日本一を誇る「花の王国あいち」のPR実施

抹茶

- ・愛知県茶会の開催

畜産

- ・「名古屋コーチンの日(3月10日)」PR

水産物

- ・あさり・うなぎ等の県産水産物の知名度向上

7-8 農業のブランド力強化に向けた取組②

食と花の街道

県産の農林水産物等を活用し、食や花をテーマとして地域活性化と観光振興に向けた活動を行う地域を2016年度から「食と花の街道」として認定し、その魅力を広くPRしている。認定期間5年間（5年毎更新）。

<認定状況> 18街道（2023年4月現在）

いいともあいち食の街道 17街道
花の王国あいちフラワー街道 1街道

第17回食育推進全国大会の開催

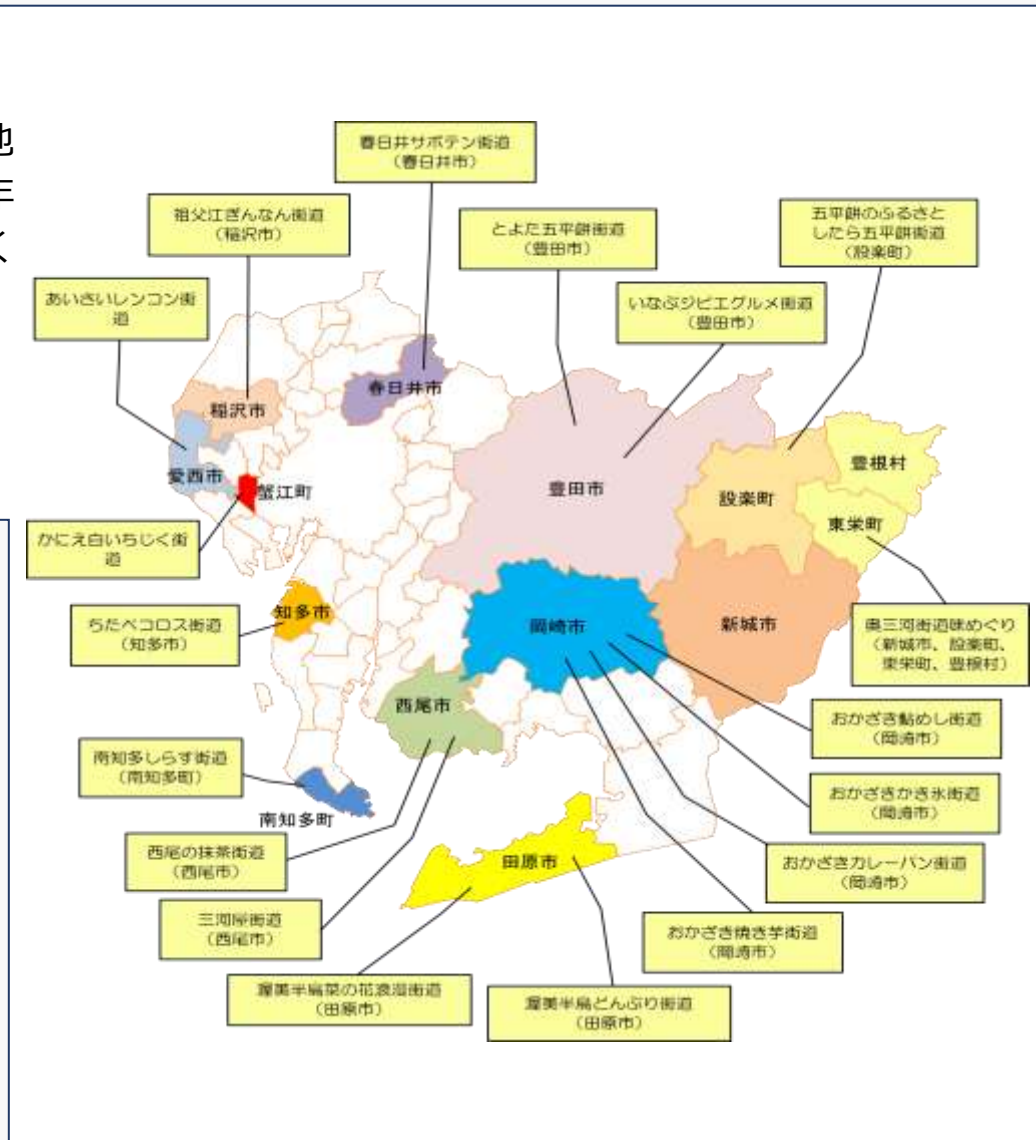
主催：農林水産省・愛知県・第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会

開催日：2022年6月18日（土）・19日（日）

会場：Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）

内容：食育活動表彰、講演会、シンポジウム、ステージイベント、ブース展示、県産農林水産物や食品の販売など

参加者数：23,515人（2日間）



7-9 あいち農業イノベーションプロジェクト

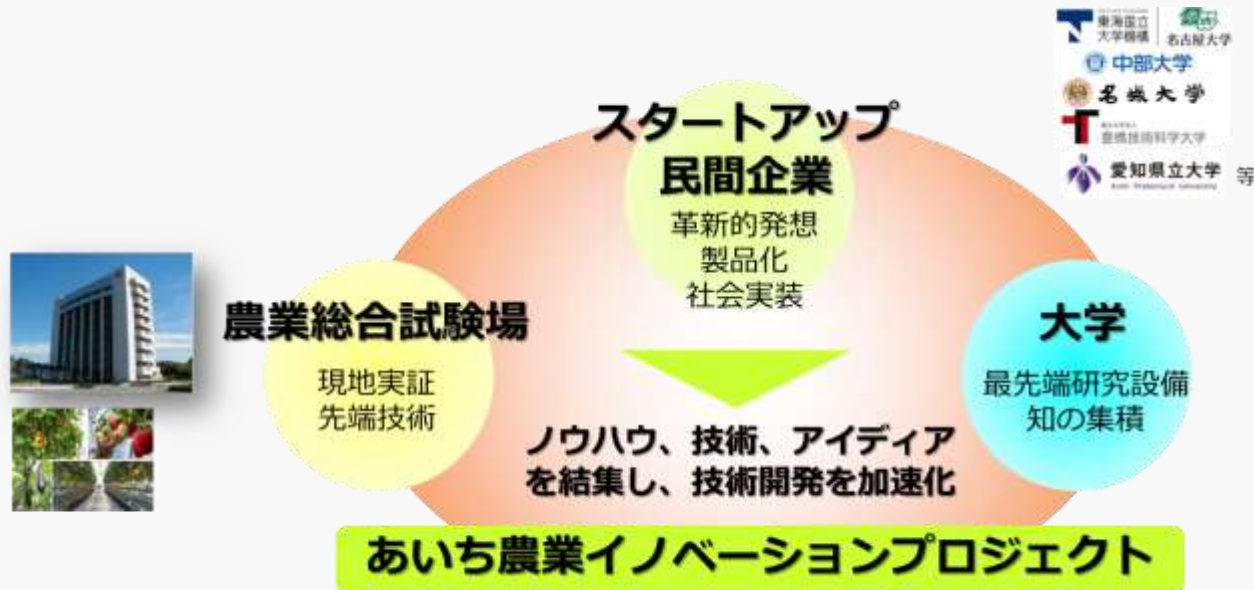
○農業総合試験場や大学が有する技術、フィールド、ノウハウと、スタートアップ等の新しいアイデアや技術を活用した共同研究体制の強化を図り、新しい農業イノベーションの創出を目指す取組。

本県農業の課題

- カーボンニュートラル、サプライチェーンの構築、SDGsなど
- スマート農業技術の開発加速化
- 担い手減少や高齢化

2022年度取組

- 予備試験の実施を含む研究開発の計画と社会実装に向けた事業計画を作成（13者）
- 喫緊の課題（燃油・肥料高騰対策）に対する共同研究開発の着手（6者）
- オープンイノベーション体制構築のための構想案を策定



7-10 循環型林業の推進

循環型林業

「伐る・使う→
植える→育てる」



住宅



木製品



商業施設や公共施設



遊具





7-11 あいちのスマートト林業

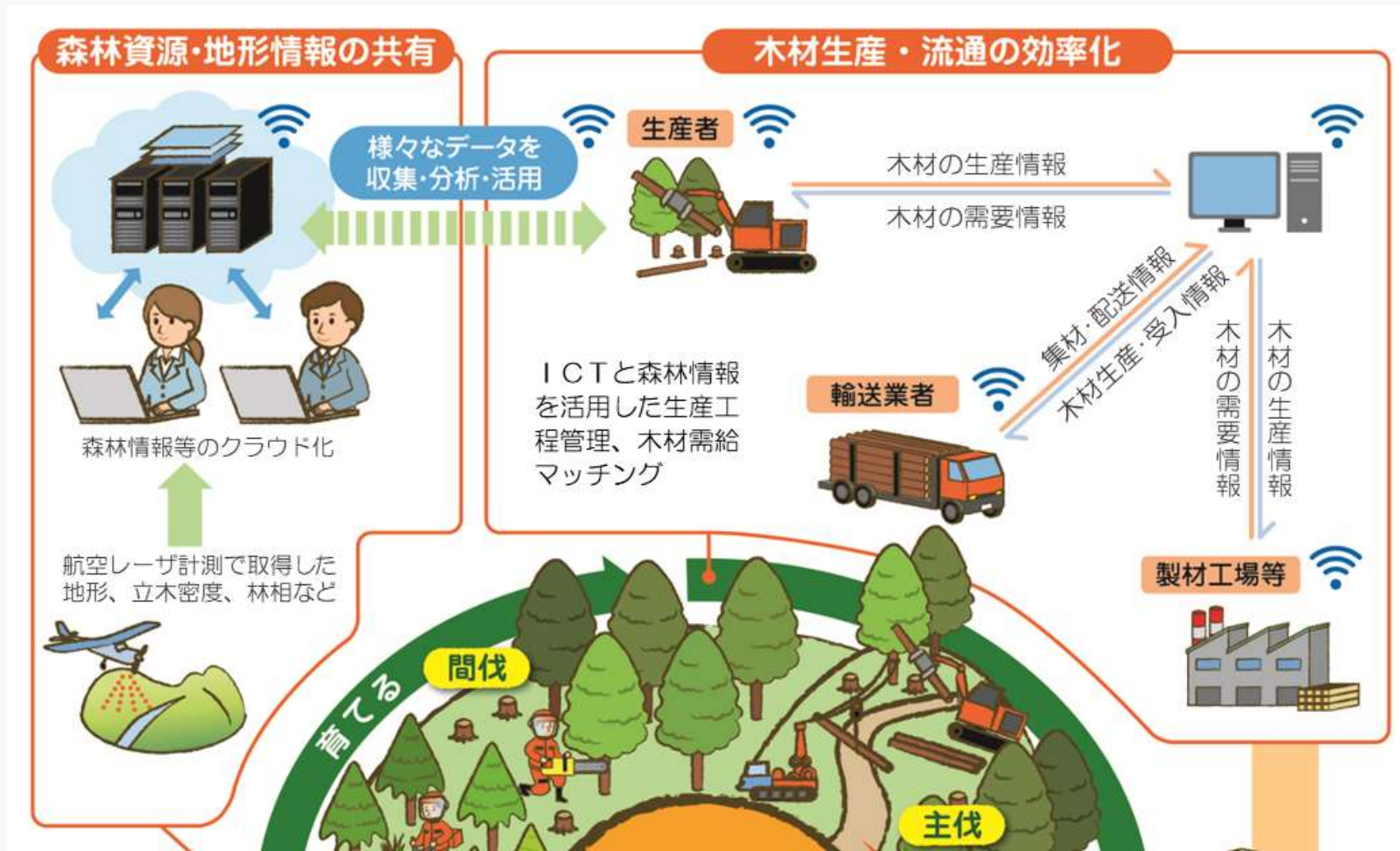
林業の成長産業化や森林の適正管理に向けた取組を推進

森林資源の把握

路網設計・施業提案

木材生産の計画・管理

需給情報の共有



7-12 木材利用の促進

木材利用の促進に関する基本計画

○2022年4月策定。

○県産木材の利用促進に向けた県の基本方針や、木材の利用に関する目標等を記載。

○これまでの公共施設、公共工事を中心とした取組から、民間の建築物等における利用まで対象を拡大。

○木の香る都市（まち）づくり事業

県産木材を利用し、多くの県民が訪れる、PR効果の高い施設※に対して助成

※オフィス（エントランス等）や病院、カフェなど、人が集まる施設



ささしま高架下オフィス（名古屋市）



名古屋ビルディング桜館（名古屋市）

7-13 漁業生産力の強化

干潟・浅場や貝類増殖場の造成



砕石を利用した増殖場整備
(あさり資源回復対策)



貝類増殖場と砕石に付着したアサリ

水産資源の増大や有効利用

栽培漁業の拡充や養殖業の導入



栽培漁業センターで生産した
クルマエビ放流種苗



漁業調査船「海幸丸」を活用した
水産資源調査

漁業生産に必要な 栄養塩量の確保



栄養塩不足により色落ちした
ノリ (左) と正常なノリ (右)



栄養不良で身が小さいアサリ



- 1 県内の消費者と生産者が
今まで以上にいい友関係になる
・・・
- 2 Eat more Aichi products
(イート モア アイチ プロダクツ)
||
もっと愛知県産品を食べよう
(利用しよう)